



成長する、ということ

1年生の昇降口の奥にある中庭の八重桜もすっかり花びらを落として、中庭は一面ピンクの絨毯になっています。気づけばすでに若葉の季節となり、子供たちも新学年となって3週間が過ぎました。どの学年の生徒も「一步前進」を目指して張り切って生活してきましたが、一ヶ月近くたって息切れ気味の生徒も出てきているようです。そんな中、3年生ではどのクラスでも「去年と違う」「頑張っている」というちょっといい話をたくさん耳にします。

本校では、各教科のその日の授業の取り組みを、教科担当教諭がA・B・Cで評価してクラスの教科リーダーの生徒に伝えています。それを毎日の「帰りの会」で教科リーダーがクラス全員に報告することで、クラス全体の授業への取り組み方を改善したり、個々の生徒に自覚を促したりすることを目的にしているのですが、3年生では、今年度になってからこの授業評価が改善されてきているクラスが多くなっているようです。昨年度まで提出物や家庭学習ノートなどをあまり出さなかった人が出さようになり、授業に対する取り組み姿勢が明らかに変わった人も多くなっているようで、その結果が授業評価にも反映しているのでしょう。

また、自ら学年委員に立候補した人や、「昨年は学級目標が達成できなかったから、今年はみんなで頑張って達成しよう！」とクラス全員に呼びかけた人、学年レクを意欲的に頑張ってクラスの雰囲気を変えた人など、多くの3年生が「去年とは違う」姿を見せてくれているようです。

現在、体育の授業で行われている「シャトルラン」でも、ほぼすべての生徒が真剣に自分の力のすべてを出し切って最後まで走りきっている、という話を聞いています。そして、どのクラスの授業でも、最後の一人が走り終えた時には、自然に拍手がわき上がっている、といえます。友達の真剣な姿に対して純粋に賞賛できる生徒たち…。それを意思表示できる3年生に成長していることを、とてもうれしく思います。

中学生は日々成長しています。特に3年生になると、様々なことを深く考えながら生活するようになります。以下、ある3年生の書いた作文の一部を紹介します。

**「今年は中学校最後の一年で、行事や部活も最後です。そして受験があります。たくさん
のことがあるからこそ、後悔もたくさん生まれると思います。どうしたら後悔しないか、自分
なりに考えてみました。まず、部活と行事です。(中略)負けても悔いを残さないためには、
それまでの練習や本番を全力で行うことが大切だと考えました。たとえ負けてしまっても、
楽しんで、全力でやれば悔いは残らないと思います。」**

そして受験です。この後悔といえば、(もっと勉強していれば受かったかもしれない…)と
いうことだと思います。この後悔は未来ずっと続くかもしれません。(中略)だから、もし受
からなくても、後悔しないくらい勉強すればいいと思います。私は勉強があまり好きではな
いけど、今のうちから頑張っていこうと思います。そして、後悔ばかりの人生にならないよう、
何事にも頑張っていき、最後の一年を最高の一年にしたいと思います。」